

湘南藤沢学会 研究助成金報告書
「トルコの市民運動であるヒズメット運動の教育活動についての調査」

環境情報学部 4 年
楠原 亜貴

1、活動の目的

トルコで 60 年代頃に生まれたヒズメット(奉仕)運動と呼ばれるイスラームを基盤とする市民運動が現在、トルコ国内だけでなく世界各国から注目を集める大きな勢力となっている。ヒズメット運動の活動の三本の柱のうち的一本が教育活動であり、国内外に数多くの学校が建設された。また私立塾や支援組合なども数多く存在し、学生への惜しみない援助が行われている。このようなヒズメット運動の教育活動は学生に対してどのような影響を与えているのであろうか。支援組合へ通う学生へのインタビューを通じて、明らかにすることが本活動の目的である。

2、活動概要

- ・期間 : 2015 年 9 月 10 日 (木) ~ 9 月 18 日 (金)
- ・場所 : トルコ共和国イスタンブール市メジディエキョイ地区
Akademist Gelişim Derneği 組合
- ・実施者: 楠原 亜貴
- ・協力者: Akademist Gelişim Derneği 組合に通う女子大学生 10 名、
マルマラ大学 I 教授



Akademist Gelişim Derneği 組合のサロンにて

3、活動内容

- ・女子大学生へのインタビュー

トルコ共和国イスタンブール市メジディエキョイ地区にある女子大学生への支援組合(名称: Akademist Gelişim Derneği)に関する調査を行った。この支援組合は地方から上京した学生への住居の紹介や施設内での様々な講座の開設など、女子大学生の生活全般を包括する支援を行っている。女子大学生であれば誰でも参加することが可能であり、開かれた場所である。今回の調査では、この組合に通う女子大学生 10 名へのインタビューを実施した。質問項目は以下である。

①支援団体へ通う頻度、団体の運営に関わっているのか否か、②通うようになったきっかけ、③通う前と後の生活の変化、④通う前に抱いていたヒズメット運動のイメージの変化、⑤大学卒業後、運動にはどのように関わっていくのか、⑥家族は組合へ通っていることをどのように思っているか、または通う後の変化はあったか、⑦昔の友人とは連絡は続いているのか、友人は彼女達が組合へ通うことに対してどのような反応を示したのか。

インタビューは組合、喫茶店や彼女達の家で実施した。一人につき 30 分から 1 時間ほど話を聞くことができた。

- ・I 教授との懇談

9 月 11 日(金)、イスタンブール市ベシクタシュで教授から話を聞くことができた。また、女子大学生へのインタビュー項目に関してもアドバイスをいただいた。

4、成果報告

女子大学生が受ける影響を考える際に、まず、支援組合へ低い頻度で通う学生と高い頻度で通う学生の二つのグループに大きく分けることができる。支援組合へ低い頻度で通うグループでは、「社会生活の向上」という点における生活の変化が、他方、高い頻度で通うグループでは、「社会生活の向上」と「イスラームの理解や信仰」という二点における生活の変化がそれぞれのインタビューから明らかになった。すべての学生に共通している影響は「社会生活の向上」であるが、「信仰」について言及したのは高い頻度で通う学生達だけであった。このことから、支援組合の「社会」との関係が深化するにつれて、彼女達の「信仰」も深化しているのが分かる。

また次に、彼女達の家族がヒズメット(奉仕)運動に良い反応もしくは悪い反応のどちらを示すかで大きく二つのパターンに分けられる。以前はヒズメット運動に対して良い印象を抱いていた家族がほとんどであった。しかし、昨今のヒズメット運動への政治的弾圧により、国内外で運動についての批判的な報道が数多く流されている。そのような報道を見聞きした家族は運動に対し批判的な立場となり、娘が支援組合へ通うことに対しても悪い反応を示すようになった。家族からの反対により、支援組合へ通うことが困難となるケースもあることが分かった。政治とは関係のない場所で生まれた運動ではあるが、勢力を強めるにつれ政治と関わりを持つようになってしまった。支援組合へ通う学生は政治とは関係なく活動をしているが、彼女達も政治的な影響を間接的に受けていることが分かった。

女子大学生が受ける影響について、以上の二つの軸を掛け合わせて、大きく四つのパターンに分類できると考える。支援組合、そしてヒズメット(奉仕)運動から受ける影響もそれぞれパターンに分けて、分析をしていく必要がある。

今後の生き方に関して、高い頻度で通う学生が「yaşatmak için yaşamak (生かすために生きる)」という言葉を使った。人々の助けになりたいという彼女達の想いが込められている。彼女達にとってのヒズメット(奉仕)運動を表す印象深い一言であった。彼女達は支援組合の「社会」を通して「信仰」を深め、人生の意味を学んでいる。

・マルマラ大学I教授との懇談

ヒズメット運動についての外側からの客観的な視点について教わることができた。教授自身も運動に関わろうとしていた時期もあったが、窮屈に感じることもあり、現在は運動とは距離を置いているとのことであった。自身の生活基盤がすでに定まっている人や、ライフスタイルが確立している人にとって、運動に参加することで受ける影響は良いものばかりではないのかもしれない。

5、今後の課題と展望

今回、インタビューを通じて、女子大学生と家族との間で軋轢が生じていることが新たに明らかとなった。これは現在のトルコ社会で起こっているヒズメット運動への政治的弾圧の影響によるものである。これらを含むトルコ情勢を分析することは彼女達の生活や心情を理解するために必要不可欠である。現在のトルコ情勢を追うとともに、ヒズメット運動に関する文献調査を進めることによって、本調査結果の考察も深まることであろう。彼女達と支援組合の関係性と家族との関係性の二つを軸に今後さらに調査を進め、卒業論文「ヒズメット運動の教育活動(仮)」を執筆する予定である。

6、謝辞

本活動の実施に際し、資金面でのご支援をいただいた湘南藤沢学会様、またご協力いただきました全ての皆様に心より感謝申し上げます。